

文学探究プロジェクト（第2回）

日時 令和5年7月27日（火） 13:30～15:30
場所 弘前市立郷土文学館
対象 2年次希望者

7月27日（木）夏期講習4日目終了後に、会場を弘前市立郷土文学館に移して第2回を行いました。講師は、弘前市立郷土文学館の櫛引洋一先生です。平成30年度の本プロジェクト開始から櫛引先生には御講演をお願いし、アドバイス等をいただいています。

「文豪は岩木山をどのように見たか」の演題で、弘前市立郷土文学館の展示物を見ながら解説もしていただきました。御講演のあとは、「小説「花はくれない」－佐藤愛子が描いた父・紅緑－」のDVD視聴も行いました。

生徒たちは、「多くの文豪たちが岩木山をいろんな価値観や方向で見ていたことを知り、特に印象に残ったのは太宰治が津軽から見た岩木山は美人に見えるから好きだけど鰯ヶ沢辺りから見るとブスに見えるから嫌いと話していたのが面白かったし、少し共感するなと思った。」「文豪によって岩木山への見方、感じ方は違っていったものの、みな地元を愛しておりそれぞれ温かな思いを持っていたと感じた。」「太宰が岩木山を擬人化して女に例えて見ていたのがいかにも太宰って感じがしておもしろかった。」「弘前の文豪たちのつながりを学ぶことができて、面白かった。」などの感想が寄せられました。

生徒たちは、終了後も弘前市立郷土文学館に残り、展示物を興味深い様子で見っていました。

